

第1学年1組 国語科学習指導案

令和4年11月11日(金) 第5校時
指導者 教諭 河野 明音

1 単元名 「せつめいする文しょうをよもう／せつめいする文しょうをかこう」(12時間扱い)
(教材名 じどう車くらべ、じどう車ずかんをつくろう)

2 単元の目標

- (1) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 〈知識及び技能〉(2) ア
- (2) 事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉B (1) イ
- (3) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C (1) ア
- (4) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C (1) ウ
- (5) 進んで文章を読み、説明における順序の重要性を知ることで、自分が説明するときにかきたいことを見つけようとしている。
〈学びに向かう力、人間性等〉
- (6) 分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、自分でも自動車図鑑を作ろうとしている。
〈学びに向かう力、人間性等〉

3 単元の目標達成のための中心となる言語活動

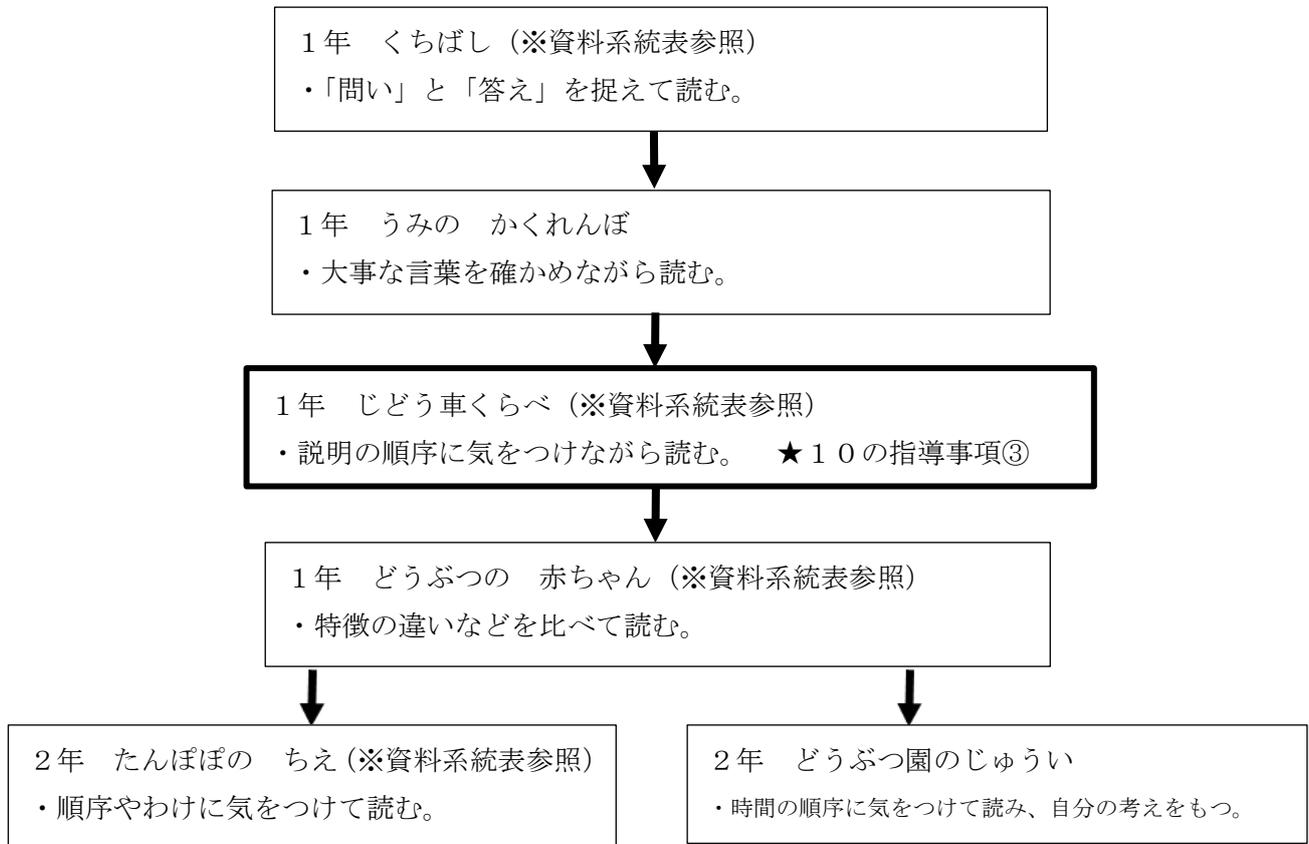
事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。 (関連：言語活動例ア)

4 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) ②「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ③「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	①進んで文章を読み、説明における順序の重要性を知ることで、自分が説明するときにかきたいことを見つけようとしている。 ②分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、自分でも自動車図鑑を作ろうとしている。

5 単元について

(1) 言語能力の系統性



(2) 児童の実態

調査人数 15名 調査日 令和4年10月19日

1	国語の学習は好きですか。	とても好き4人 好き9人 きらい2人
2	国語に関する活動で、好きなものは何ですか。	音読7人 自分の考えを書く6人 日記を書く13人 文字を練習する8人 友達の発表を聞く15人 自分の考えを発表する10人 読書14人
3	説明文のなかで、問いの文を見つけながら読んでいますか。	見つけている7人 見つけていない8人
4	説明文のなかで、問いの答えを見つけながら読んでいますか。	見つけている7人 見つけていない8人

本学級の児童は、これまでに文字の学習としてひらがなを学び、徐々に読んだり書いたりできるようになってきた。音読では言葉のまとまりを意識して文を読めるようになってきている。入学して初めて学習した説明文は「くちばし」であり、説明文の基本的なパターンである「問い→答え」という「表現の工夫」を学んだ。そして「順序の工夫」において、「見えるもの」(外見・つくり)から「見えない

もの」(機能・しごと)という形式も学んでいる。これらを使って児童は、生活科のあさがおの観察において「見えるもの→見えないもの」の工夫を使い、(例)「はっぱの大きさは、わたしのてとおなじくらい」→「さわるとちくちくする」等のように活用している。見えるもの(外見・つくり)としては「数」「形」「色」等の観点があること、見えないもの(機能・しごと)としては「さわった感じ」「におい」「重さ」等の観点を示すことにより、国語科での指導事項を生活科に生かしている。また、「うみのかくれんぼ」では、問いと答えを文章の中から探し出すことができる児童も多くいた。

国語の学習についてのアンケートでは、国語が好きな児童が多い。しかし、好きな国語の活動の中で、自分の考えを書くことが好きと答えた児童は、他の項目に比べて人数が少なくなっている。書くことに関しては個人差が大きく、ひらがなを書くこと自体に時間を要する児童もまだいる。また、自分が書きたいことが先行してしまい、文章として成り立たない児童もいる。さらに、学級の半数の児童は説明文の問いや答えを意識せずに読んでいると答えている。本単元の学習を通して、「～でしょうか。」という言葉(問い)や、それに対する答えを意識できるようにしていきたい。

(3) 指導観

本単元では、「事柄の順序を考えながら内容の大体を読む力」「重要な語や文を考えて文章を書く力」を身に付けることをねらう。

教材文「じどう車くらべ」は、児童にとって身近で興味がわく題材を扱っている。3種類の自動車についての「話題・問題提示→問題に対する説明」を「仕事」と「つくり」という二つの事柄の因果関係で繰り返し述べる形をとっている。また、子供たちが内容を理解しやすいように文末表現をパターン化したり、「つくり」を説明するために適切な接続語を用いたり、「つくり」を体の部分に見立てるなど身近な言葉に置き換えたりする工夫がなされている。さらに、本文の学習で習得した能力を表現学習に生かせるように配慮されているので、消防自動車の仕事、つくりの説明を自分で考えて書くことが可能である。

教材文の読解を通して、文章のしくみを理解し、自分の力でそのしくみを見つけることができるようにしていきたい。そして、学んだ文章構成を使って、自分が選んだじどう車の説明文を書いていく。一人一人が書いた説明文をまとめ、1冊の「1ねん1くみ ぐんぐん!じどう車ずかん」を作成する。

指導にあたっては、じどう車の「しごと」や「つくり」を把握しやすいように、じどう車のおもちゃの具体物を用いたり、動画を見せたりする。実際に目で見ることによって、具体的なじどう車のしくみが見つけやすくなると考える。さらに、ワークシートも工夫して用いることで、読み取りの定着や、説明文の文型の理解の定着を目指していきたい。

6 単元の指導計画・評価計画

時	主な学習活動	学習内容	評価の観点			具体的評価規準
			知	思	態	
1	自動車について知っていることや経験を話し合い、「じどう車ずかん」をつくるための学習計画を立てる。	○学習の見通し ○初発の感想 ・わかったこと ・心に残ったこと ・気になる言葉			①	【態】さまざまな自動車には、それぞれ「しごと」と「つくり」があることに興味をもち、学習課題に進んで取り組もうとしている。（発言・記述）
クラスみんなで「1ねん1くみ ぐんぐん!じどう車ずかん」をつくろう						
2	図鑑を作るために「じどう車くらべ」を読み、書かれている車や「問い」をつかむ。	○問い ○しごと ○つくり ○接続語 「そのために」	①			【知】「しごと」に合った「つくり」が説明されていることに気づいている。（発言・記述）
3 〜 5	バスや乗用車、トラック、クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめる。	○しごと ○つくり		②		【思】それぞれの自動車の説明を読み、その「しごと」と「つくり」を捉えている。（発言・記述）
6	図鑑をつくるために、書き方の工夫を考える。	○事例の順序(身近なものから)		②		【思】事例の順序について考える活動を通して、構成の意図を捉えている。（発言・記述）
7 本時	はしご車の「しごと」と「つくり」をまとめる。	○しごと ○つくり ○文型 ○○は……しごとをしています。そのために、～～つくてあります。			① ③	【態】はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を粘り強く見つけようとしている。（観察・発表） 【思】説明における順序の重要性を知り、「しごと」や「つくり」について説明することができる。（記述・発表）
8	「1ねん1くみ ぐんぐん!じどう車ずかん」を作るための計画をする。	○題材となる自動車の選定 ○説明の仕方 ○順序			②	【態】「じどう車ずかん」の作り方を話し合うことを通して、学習の見通しをもとうとしている。（発言・記述）

9	図鑑の題材となる自動車の「しごと」を調べて、カードに書く。	○しごと ○○は……しごとをしています。	①		【知】「しごと」と「つくり」の関連を考えている。 (記述・発言)
10	図鑑の題材となる自動車の「つくり」を調べて、カードに書く。	○接続語 「そのために」 ○つくり そのために、～～つくってあります。		①	【思】紹介したい自動車の「つくり」について情報を集め、「しごと」に合わせた「つくり」を選び、伝えたいことを明確にしている。 (記述)
11	図鑑のページとなる「じどう車しょうかいカード」を仕上げる。	○しごと ○つくり ○文型 ○○は……しごとをしています。そのために、～～つくってあります。 ○推敲		①	【思】調べたことをもとに、「しごと」と「つくり」の順で「じどう車しょうかいカード」を書いている。 (記述)
12	図鑑のページとなる「じどう車しょうかいカード」を読んで、感想を伝え合う。	○説明の仕方のよさ ○学習の振り返り		①	【思】「じどう車しょうかいカード」を読み合って感想を伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見つけている。 (発言・記述)

7 研究主題との関連

論理的思考力を高める国語科指導の追究
～実生活に生かせる読む・書く力の育成～

仮説1 系統表により、各単元において身に付けなくてはならない学力を明確化し、指導計画や指導方法を工夫することで、論理的思考力が養われ、自分の考えを表現することができるのではないかと。

手立て1 単元のはじめに学習計画を立て、「じどう車ずかんをつくる」というゴールを設定することにより、単元全体の広い見通しをもって学習に臨めるようにする。

手立て2 自動車のおもちゃの具体物を用いたり、動画を見せたりすることによって児童が「つくり」の工夫を見つけやすくする。

仮説2 多様な対話形式を設定することで、児童が目的意識をもって、自分の考えを比較したり見直し
たりするようになり、自分の考えを広げ、深める力が育つのではないか。

手立て1 話し合いグループを2～3人と少なく設定することで、全員が話し合いに参加できるようにする。

手立て2 話し合いの型を決めることで、どの児童もスムーズな意見交流ができるようにする。

8 本時の学習指導（7／12時）

（1） 目標

○はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を粘り強く見つけようとしている。

〈学びに向かう力、人間性等〉

○説明における順序の重要性を知り、「しごと」や「つくり」について説明することができる。

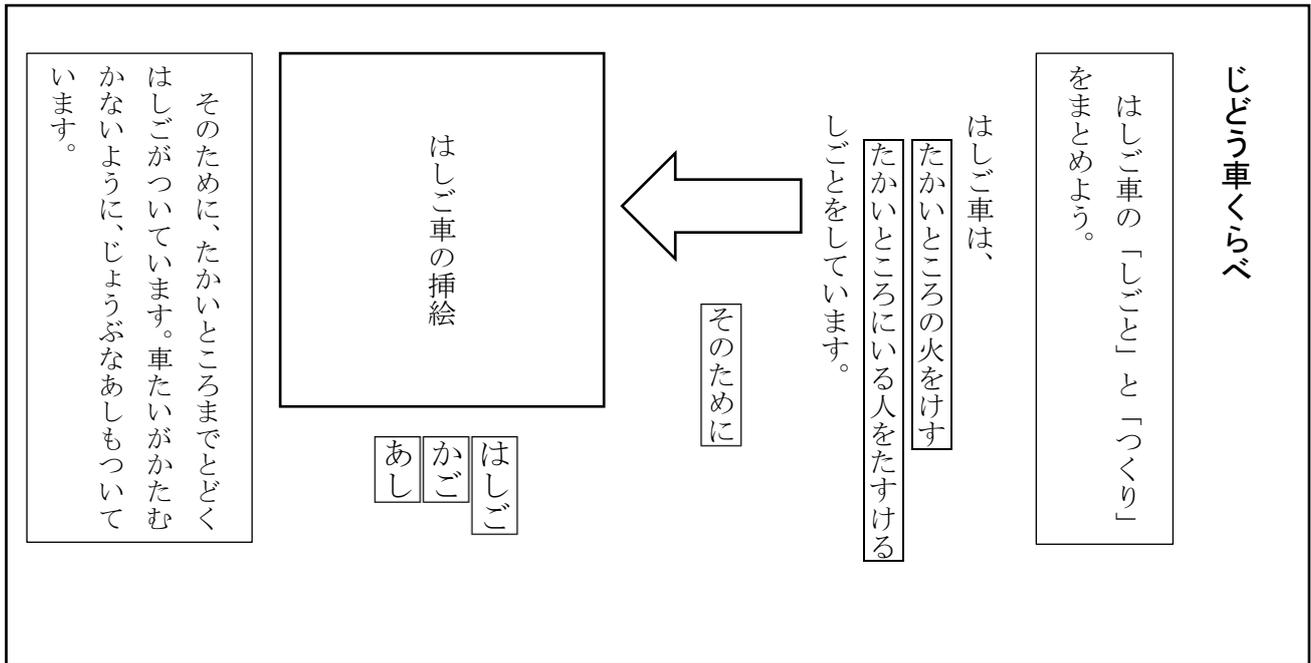
〈思考・判断・表現〉C （1）ウ

（2） 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価 ★研究主題との関わり	時間
1 前時までの内容を振り返り、本時の課題を確認する。		○本時の見通しがもてるように、学習計画や既習図で振り返りの場を設定する。	10
はしご車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。			
2 はしご車の「しごと」と「つくり」を文に表す。 (1) はしご車の「しごと」について考える。	○「しごと」 ・高いところの火を消す。 ・高いところにいる人を助ける。	★はしご車の動画や具体物から、はしご車のイメージを捉えさせる。 ○しごとの文は、「○○は、～しごとをしている。」という文になっていることを既習文から確認し、教師と一緒にまとめる。	5
(2) はしご車の「つくり」について考える。 ① 挿絵の中から「つくり」を見つける。	○「つくり」 ・はしご ・かご ・あし 長いはしご	○挿絵から「つくり」を見つけ、丸で囲ませる。 評価場面1	

<p>② はしご車の「はたらき」と「つくり」を文に表し、説明する。</p>	<p>人が乗れるかご ↑ 高いところの火を消したり、人を助けたりするため。</p> <p>しっかりとした足 ↑ 長いはしごを支えるため。</p>	<p>【態度①】 <評価方法>観察・発表 ・資料から、はしご車の「しごと」や「つくり」をみつけることができていた児童をBとする。 <「努力を要する」状況(C)への手立て> ・他の車との違いを比べながら考えさせる。</p>	<p>15</p>
<p>③ 書いた文を、友達と伝え合う。</p>	<p>はしご車は、高いところにいる人を助ける仕事をしています。 そのために、高いところまで届くはしごがついています。車体が傾かないように、じょうぶな足もついています。</p>	<p>○既習の文型を参考にさせる。</p> <p>評価場面2</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 <評価方法>記述・発表 ・「しごと」と「つくり」の関係を捉え、文にして表している児童をBとする。 <「努力を要する」状況(C)への手立て> ・文型に言葉を当てはめさせる。</p>	<p>10</p>
<p>3 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○自己評価 ○次時の予告</p>	<p>★自分が書いた文章をペアで伝え合う。</p> <p>○振り返りカードに感想等記入することを通し、学習を振り返らせる。 ○次時は、図鑑から好きな自動車を選んで自動車図鑑を作ることを伝える。</p>	<p>5</p>

9 板書計画



10 資料（文章構成図）

中 3			中 2			中 1			はじめ			段落
⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	中心となる語
しっかりした足がついている	丈夫な腕が、伸びたり動いたりするようになってい	クレーン車は、重い荷物をつり上げる仕事をしてい	タイヤがたくさんついている	広い荷台になっている	トラックは、荷物を運ぶ仕事をしている	大きな窓がたくさんある	座席のところが広く作ってある	バスや乗用車は、人を乗せて運ぶ仕事をしている	どんなつくりになっているか	どんな仕事をしているか	いろいろな自動車が走っている	